

事業実施報告書

法人名 特定非営利活動法人春日部育英キャリアサポート

事業名	不登校中高生「学び」サポート 事業
枠の種類	分野指定枠
分野	子どもの健全育成
①事業の目的・この事業で取り組んだ課題	<p>(1) 目的 埼玉県の中学生の不登校防止、高校生の中退防止、不登校生徒の学びの機会の確保等</p> <p>(2) 課題</p> <p>①中高生が、「主体的に行っている活動（自主学习、ゲーム（ネットゲームやボードゲーム）や外遊び・運動等）」と「学び（各教科学習や進路のための学習等）」を結び付け、「学習」としての効果を高めることで、中高生の「学び」につながるように大人がガイドする必要がある。</p> <p>②中高生が、自身の環境（保護者、学校、相談センター、塾、サポート機関、web 学習等）にあるサービスを、目的に応じた利用が難しい。</p> <p>③中高生及び保護者が、「多様な学び方」の存在を知る機会がなく、自分に合う「学び方」を選択するために情報提供の機会が少ない。</p>
②課題を解決するため、取り組んだ個々の事業	<p>(1) 不登校中高生の主体的な活動の「学び」サポート</p> <p>①趣旨 不登校中高生の「個々の活動」や「学び合い活動」を通じて、「学習の進め方」、「個々の取り組みへのフィードバック」、「各々の環境の活用の仕方」をガイドし、主体的な「学び」や「学習の効果を高める」サポートを行った。</p> <p>②時期 7月～2月（全34回）</p> <p>③対象者 春日部市を中心とした近隣地域中高生</p> <p>④場所 春日部市市民活動センター（ふれあいキューブ4階）</p> <p>⑤参加数 16組（27名）</p> <p>⑥外部協力者・団体など ・春日部市不登校親の会 ・春日部不登校居場所ひろば</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・春日部市教育相談センター ・阿部臨床心理オフィス（春日部） ・春日部市市民活動センターぽぽら春日部 <p>（２）多様な学び方を応援！高校進学「座談会」</p> <p>①趣旨 通信制高校、定時制高校、フリースクール等を体験している方々（卒業生）に参加してもらい、座談会を通じて、不登校中高生が「自分に合った学び方や高校選択」ができるように、情報提供の場を設けた。</p> <p>②時期 10月, 11月（全2回）</p> <p>③対象者 春日部市を中心とした近隣地域中高生の学校教員、相談員、保護者等</p> <p>④場所 春日部市市民活動センター（ふれあいキューブ4階）</p> <p>⑤参加数 第1回 5組（6名） 第2回 2組（4名）</p> <p>⑥外部協力者・団体など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春日部市不登校親の会 ・春日部不登校居場所ひろば ・春日部市市民活動センターぽぽら春日部 ・埼玉県立学校教職員 ・阿部臨床心理オフィス（春日部） ・春日部市市民活動センターぽぽら春日部 ・春日部市教育員会（後援依頼）、埼玉県教育委員会（後援依頼） 																		
<p>③個々の事業の内容・実施結果</p>	<p>（１）不登校中高生の主体的な活動の「学び」サポート</p> <p>○実施までの準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動や活動内容の精選、講師や活動場所のスケジュール等調整など <table border="1" data-bbox="502 1556 1361 2000"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月</td> <td>開催準備 第1回実施</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>第2～6回実施</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>第7～10回実施 アンケート結果の分析</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>第11～13回実施</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>第14～16回実施</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>第17～21回実施 アンケート結果の分析</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>第22～23回実施 アンケート結果の分析</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>第24～34回実施 アンケート結果の分析</td> </tr> </tbody> </table>	時期		7月	開催準備 第1回実施	8月	第2～6回実施	9月	第7～10回実施 アンケート結果の分析	10月	第11～13回実施	11月	第14～16回実施	12月	第17～21回実施 アンケート結果の分析	1月	第22～23回実施 アンケート結果の分析	2月	第24～34回実施 アンケート結果の分析
時期																			
7月	開催準備 第1回実施																		
8月	第2～6回実施																		
9月	第7～10回実施 アンケート結果の分析																		
10月	第11～13回実施																		
11月	第14～16回実施																		
12月	第17～21回実施 アンケート結果の分析																		
1月	第22～23回実施 アンケート結果の分析																		
2月	第24～34回実施 アンケート結果の分析																		

○内容

参加状況やアンケートからのニーズを踏まえ内容を柔軟に修正しながら実施。

- ・ 7月～9月 保護者を中心とした相談
- ・ 10月～12月「親子で考える“学び”相談」と「学ぶ居場所」の2つにのパートに内容を分類し実施。(中高生(一部小学生)が参加しやすいきっかけを作りの必要性が出たため)
- ・ 1月「親子で考える“学び”相談」Zoom アプリにてオンライン開催(新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言による感染防止対策を踏まえ、オンライン対応を実施。)
- ・ 2月「親子で考える“学び”相談」、「個別の学びサポート」(新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言による感染防止対策を踏まえ、人数制限での対応を実施。(不登校中高生のオンライン上での参加は、本テーマでは難しいことを踏まえて実施。))

○広報実績について

- ・ 7月 法人のホームページに掲載、チラシの作成、SNSにて広報
- ・ 8月 埼玉県教育委員会後援 春日部市教育委員会後援を取り付けチラシ配布(春日部市教育相談センター、春日部市公共施設、春日部不登校親の会、春日部不登校居場所ひろば、臨床心理オフィス(春日部)等)等
- ・ 9月・10月 春日部市中学校等にチラシ配布

(2) 多様な学び方を応援! 高校進学「座談会」

○実施までの準備

- ・ 広報活動や内容の精選、講師や活動場所のスケジュール等調整、高等学校(埼玉県公立定時制高校、通信制高校を中心に)パンフレット配布依頼など

時期	
7月、8月	
9月	開催準備
10月	第1回目実施
11月	第2回目実施
12月	アンケート結果の分析
1月、2月	

	<p>○内容</p> <p>座談会（テーマ：「自分に合った学び方や高校の選択」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校中学生、保護者と高校選びや選択肢を広げるための情報交換会 ・各定時制高校、通信制高校の取り組みやサポート内容についての紹介、埼玉県公立高校不登校特別選抜についての情報提供 ・通信制高校パンフレット紹介・配布等 <p>（※新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえ、Zoom アプリを使用したオンラインインタビューやインタビュー動画の事前作成、中高生1人に対して保護者1人の参加の呼びかけ、スタッフも含め可能な限り少人数になるように実施。）</p> <p>○新型コロナウイルスへの感染防止対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場では、マスクの着用、ソーシャルディスタンス、アルコール消毒、換気の徹底を図って実施した。（発熱のある方は、参加のお断り。） ・参加定員を下げ、人数制限をしながら行った。 ・座談会では、オンラインインタビューやインタビュー動画の事前作成など、スタッフ（オンラインや別場所で作業）も含め可能な限り少人数になるように取り組んでいる。 <p>（1月からの緊急事態宣言後は、さらに厳しく実施。）</p> <p>○広報実績について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月 埼玉県教育委員会後援 春日部市教育委員会後援を取り付け ・8月 チラシの作成 ・9月・10月 法人のホームページに掲載、SNSにて広報、チラシの配布（春日部市教育相談センター、春日部市公共施設、春日部不登校親の会、春日部不登校居場所ひろば、春日部市中学校、臨床心理オフィス（春日部）等）
<p>④個々の事業の実施により達成した成果の具体的な内容</p>	<p>（1）不登校中高生の主体的な活動の「学び」サポート</p> <p>①参加人数 16組</p> <p>②アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加理由「親の会からの紹介」70%「中学校等からの勧め」30% ・保護者意見「本人の気持ち（ペース）を大切しながら、学習を進めさせたい」100% <p>③成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者を交えた「相談」を実施することにより、「子どもの学びに

	<p>ついて、一緒に考える」、「不登校についての悩みやモヤモヤを話す」、機会につながった（参加した保護者満足度 概ね高（ヒアリングより））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「親の相談」→「親子で“学び”について考える」→「学ぶ居場所（安心して参加できる場）」→「個別の学びサポート」と段階的なサポートをすることで、中高生が安心感を持って「学び」について考えるきっかけ作りにつながった。（参加した保護者満足度 概ね高（ヒアリングより）） ・学校への再登校のきっかけ、ホームスクーリングの援助、高校からの登校に向けての準備等サポートを行うことで、不登校生の「学び」や「学習」の継続するきっかけにつながった <p>（２）多様な学び方を応援！高校進学「座談会」</p> <p>①参加人数 第１回 ５組（６名） 第２回 ２組（４名）</p> <p>②アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加理由「親の会からの紹介」50%「中学校等からの勧め」40% ・事前アンケートを元に応える構成により 満足度 高 ・埼玉県公立高等学校入試（不登校特別選抜）について話を聴きたいという要望 多 ・個別相談への参加継続 ７組中５組 ・（１）主体的な活動の「学び」サポートへの参加 ７組中３組 <p>③成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立高校（不登校特別選抜）含め「多様な学び方（全日制高校、通信制高校、定時制高校、フリースクール等）の存在」を知ってもらうことにつながった。 ・座談会後の個別相談の利用につながることで、中高生本人が納得した進路を選択することで、「学ぶ機会の確保」につながった。
<p>⑤費用の工夫</p>	<p>○新型コロナウイルス感染防止対策に伴う参加定員数の減少や人数制限による規模縮小にともない会場（会議室）の規模を縮小（使用料金の削減）。</p> <p>○１月からの緊急事態宣言を受けて、新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえ、春日部市内の中学校へのチラシの送付予定が全３回予定のところ、３回目の作成、送付を見送り、費用を削減。</p>
<p>⑥地域社会への還元について</p>	<p>○親の会、公立中学校、春日部市臨床心理オフィス、春日部市教育委員会教育相談センター、春日部市市民活動センター等の様々な地域の機関と各々の役割に応じた連携を行うことで、「不登校の中高</p>

	<p>生」を多様な視点からサポートが可能となった。(地域の各諸機関の役割分担にもつながっている)。</p> <p>○「不登校」の子どもに対して必要な支援を行い、地域の未来を担う「子どもの健全育成」を目指す上で、重要な役割を担うことができたと考える。本助成事業が、不登校中高生各々の成長の後押しにつながっていることを、「子どもたち」へ伝えることで、各々が大人になった後、地域貢献をすることで感謝を還元してほしいという旨をメッセージとして送っております。</p>
<p>⑦ 今回の事業が他の団体、行政等が実施する同種の事業と比べて優れていること</p>	<p>○不登校サポートは、「居場所提供」や「再登校支援」を行っている機関が多いが、本機関は、不登校中高生の各々の「学び方」を選択するサポートをしている。(学校への再登校のきっかけ、ホームスクーリングの援助、高校からの登校のきっかけ作り等、不登校中高生各々の負担にならない学び方につながる。)</p> <p>○親の会や各種相談センターを中心に連携しているので、中高生やその保護者のニーズに合ったサポートができる。</p> <p>○公立教員を中心に設立した NPO 法人という特性を活かし、教育委員会や教育相談センターと相談したり、各中学校を介して、「サポートの存在の周知」や「集客のアプローチ(親の会や教育相談やカウンセリングへ参加していない中高生や保護者に対して)」がしやすい。</p>
<p>⑧ 事業の実施体制</p>	<p>○事業の実施について</p> <p>①統括責任者 津久井 ②連絡責任者 津久井 ③現場責任者 津久井 ④経理責任者 根津 ⑤広報責任者 森川、新井</p>
<p>⑨ 来年度以降どう事業を継続し発展させていくか</p>	<p>(1) 課題</p> <p>○中高生が、これからのための“学びの見通し”を持てることができるように、「どのように身の回りの環境(保護者、学校、相談センター、塾、サポート機関、web 学習、等)を活用していけば良いのかの指針」や「具体的な学習方法の仕方」を個別の支援計画等を作成し、より細かいサポートが必要(今年度は、簡単なフィードバックのみ)。</p> <p>(2) 来年度の事業発展</p> <p>○「親子で考える“学び”相談」→「安心感のある居場所(活動)」→「継続的に学びをサポート(より細かい個別の支援計画等の作成、</p>

	<p>サポート)」と段階的なサポートに行うことで、「多様な学び方（学校への再登校のきっかけ、ホームスクーリングの援助、高校からの登校等）」を選択しながら、不登校であっても「学び」や「学習」を継続しながら成長を支援（子どもの健全育成）することができる。</p> <p>○引き続き親の会や教育相談センター、臨床心理オフィス等と役割分担し連携していくことで、中高生や保護者の多様なニーズに応え、継続したサポートにつなげていく。</p>
--	--